1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4070502143
法人名	特定非営利活動法人　憩いの家
事業所名	グループホーム　憩いの家
所在地 (電話番号)	福岡県北九州市小倉南区木下757－5 (電　話) 093－453－1310

評価機関名	株式会社アーバン･マトリックス		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4－6　北九州ビル8F		
訪問調査日	平成19年10月26日	評価確定日	12月8日

【情報提供票より】(平成19年10月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年8月23日	
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計　9　人
職員数	7　人	常勤　6 人，非常勤　1人，常勤換算　4．6人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り
	1階建ての1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	40,000円		その他の経費 (月額)	(水道光熱費) 24,000円
敷　　金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無		有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	350　円	昼食	650　円
	夕食	650　円	おやつ	50　円
	または1日当たり　1,700円			

(4) 利用者の概要 (10月15日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	2	名	要介護2	5	名
要介護3	0	名	要介護4	0	名
要介護5	2	名	要支援2	0	名
年齢　平均	84.4 歳	最低	81 歳	最高	90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	田原医院／松本歯科／北九州総合病院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム憩いの家は、小倉南区の郊外である田園風景に囲まれ、平尾台を背にした平屋造りのグループホームである。敷地が広く、敷地内に畑が作られ、入居者が耕作し、近隣の農家の方が指導に訪れている。野菜などの収穫は暮らしの中で、入居者･職員共に楽しみなものとなっている。理念としては「家庭にある暖かさと安らぎの場を提供させて頂き、地域へ貢献をし福祉に寄与する」を掲げ、入居者の意思を尊重した質の高いケアを目指している。運営者が幼少の頃から育った地域という利点を活かし、地域との関わりや交流を大切にしている。、職員は入居者と共に愉快に楽しく暮らす家族としての役割を果している。管理者と職員は、入居者一人ひとりの性格に配慮し、能力に応じた暮らしの支援を行い、自立した日常生活を営んでいただくように心がけたケアを実践している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況 (関連項目：外部4) 昨年の指摘事項を受け、管理者及び職員一同、改善に向けた話し合いを行った。特に介護計画に関して、短期目標を毎日の行動に実践できるように記録の工夫がされている。また、個々の摂取カロリーを考慮した献立作成を行っている。職員の外部研修や勉強会にも力を入れている。 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目：外部4) グループホームの理念が職員に伝わっており、できるだけ車イスでなく、自分の足で移動していただく支援や褥創はつくらないなど、自己評価に当たって日々のケアを振り返り、確認されている。
重点項目②	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み (関連項目：外部4，5，6) 運営推進会議は、メンバーの都合が合わず、あまり開かれていなかった。今後は、メンバーと綿密に調整を行い、会議を開催していく意向である。会議ではホームの活動方針などを説明している。住民代表からは、地域の核となって、地域の活性化をすすめてほしいと期待されている。地域の行事には積極的に参加し、地域に密着し、地域に支持されるグループ･ホームとして、運営推進会議を活かしていきたいと考えている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法･運営への反映 (関連項目：外部7，8) 家族との会話の中で意見などが気軽に言える雰囲気づくりに努力されている。また、意見が出た時には、迅速に全職員で話し合いを行い、サービスの質の向上に繋げている。運営推進会議には、必ず家族の参加をお願いしているので意見や苦情などを聞く機会にもなっている。意見を言っていただけるように意見箱を設置している。
重点項目④	日常生活における地域との連携 (関連項目：外部3) 介護ボラティアや中学生･専門学生など体験学習を受け入れている。地域の方に介護や認知症について相談窓口を設け、相談できる体制を作っている。また、地域で開催されるイベントや行事が多くあるので、積極的に参加している。地域住民の会合に参加し、当グループホームの理念を浸透させ、地域との連携を高めていきたいと考えている。

2. 評価結果(詳細)

(□ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅰ. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	**○地域密着型サービスとしての理念** 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「家庭にある暖かさと安らぎの場を提供させていただき、地域へ貢献をし福祉に寄与する」という理念に、地域に貢献することで入居者が地域になじんだ暮らしができるという思いを文書で表現している。		
2	2	**○理念の共有と日々の取り組み** 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関・スタッフルームに掲示され、朝礼時に唱和し確認している。また、会議などの際に理念を共有し、実践できるように忌憚ない意見交換を行っている。		
3	5	**○地域とのつきあい** 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域主催のガーデンコンサート(胡弓の演奏)や季節の行事(節分・夏祭り等)・中学生の職場体験受け入れ・畑の指導など地域との交流を積極的に行っている。また、地域の方に介護や認知症についての相談窓口を設け、相談できる体制を作っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	**○評価の意義の理解と活用** 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全職員で行った。グループホームの質の向上として捉え、見直しの良い機会として位置づけている。また、前回の評価結果については、全職員で認識し改善に取り組み、実践につなげる努力を行っている。		
5	8	**○運営推進会議を活かした取り組み** 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、メンバーの都合が合わず、あまり開かれていなかった。今後はメンバーと綿密に調整を行い、会議を開催していく意向である。会議ではホームの活動方針などを説明している。住民代表からは、地域の核となって、地域の活性化をすすめてほしいと期待されている。地域の行事には、積極的に参加し、地域に密着し、地域に指示されるグループホームとして、運営推進会議を活かしていきたいと考えている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	**○市町村との連携** 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	苦情･相談窓口の担当である市町村に事故報告などを報告するようにしている。入居者への問題などプライバシーに配慮し、入居者が不利益をこうむらないように取り組んでいる。		
7	10	**○権利擁護に関する制度の理解と活用** 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。	入居者が単身の場合や家族が遠方の場合など権利擁護の活用が考えられるケースがあり、権利擁護に関して、管理者は職員は学んでいる。研修会の機会ごとに、全職員へ知らせ、積極的に研修参加を促すなど制度に関しての理解を深めるようにしている。必要に応じて、制度利用の説明ができる体制がある。		
4．理念を実践するための体制					
8	14	**○家族等への報告** 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的ではないが、写真入りで入居者の様子がわかるような便りや行事案内を家族へ送付している。また、家族が来所した際には、健康状態などについて詳しく報告している。サービス計画書の見直しや状態変化や事故の際は、早急に連絡をするようにしている。今後は定期的にホーム便りを作成したいと考えている。		
9	15	**○運営に関する家族等意見の反映** 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族との会話の中で意見などが気軽に言える雰囲気づくりに努力されている。また、意見が出た時には、迅速に全職員で話し合いを行い、サービスの質の向上に繋げている。運営推進会議には、必ず家族の参加をお願いしているので、意見や苦情などを聞く機会にもなっている。意見箱も設置している。		
10	18	**○職員の異動等による影響への配慮** 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	できるだけ入居者がなじみの職員による支援が受けられるように離職を最小限に抑えられるよう努力している。やむを得ない場合は、不安･不穏に関して注意を払い、入居者の安心した暮らしが継続できるように支援している。		
5．人材の育成と支援					
11	19	**○人権の尊重** 法人代表者及び管理者は、職員の募集･採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員につても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。	採用は性別や年齢などを理由に排除しないようにしている。採用は資格よりも人間性で決めている。また、管理者は、皆が生き生きと良いケアが行えるよう、意見に耳を傾け、働きやすい環境づくりに努めている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	○人権教育･啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育･啓発活動に取り組んでいる。	入居者も職員も対等であるという考え方をベースにおいている。内部研修を行い、入居者の人権を尊重するよう常に職員に話している。家族との話し合いでも、入居者の立場を守ることを最優先に対応するように努めている。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	計画的に勉強会や施設内外の研修参加によって、職員のスキルアップに努めている。職員は研修により介護の重要性を学び理解できている。研修報告が保管され、特定の職員だけでなく全職員が周知できるように伝達などの工夫が行われている。研修費用はホーム側が負担し、職員の能力アップ･自己実現に向けたサポートが行われている。		
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームと定期的な会合を持ち、餅つきなどの行事や運営推進会議の実施方法や悩み･疑問･課題などについて、情報交換を行い、交流を深めることでサービスの質の向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居の設定があり、契約前に実際に入居が可能かどうかを確認できる体験入居を行っている。基本は3泊4日で延長が可能となっている。見学や体験入居により、本人の情報を把握し、本人･家族との話し合いを行い、納得の上で無理なく支援が行えるようにしている。また、入居を希望される方と入居者となじみの関係が築き上げられるようにも支援している。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者の生活歴など昔の話を聞く機会を多く持つように取り組み、毎日の暮らしの場面で入居者の特技である畑作り･配膳･盛り付け･お茶･生け花などを指導してもらうなど、学び支え合う関係を築いている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、入居者一人ひとりの思いや暮らし方の希望･意向をできるだけ本人や家族に聞きながら把握に努めているが、記録の充実が求められる。	○	生育歴や生活歴やその人が一番人生で貴重で大事にされた暮らしなどの記録が少なかった。そのことが記録され、職員の誰もが共通認識すれば、入居者の希望･意向の源が理解でき、さらにケアに活かされると考えられる。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	入居者･家族に意見を聞きながら、管理者をはじめ、関係職員がそれぞれの意見やアイディアを反映しながら計画を作成している。介護計画はシンプルで具体的で介護の基準までおろしてあり、評価が正確にできている。また、記録も無駄がなく、短時間で1日の状態が判るように工夫されている。	○	生活行動や健康状態など、日々の情報からアセスメントが行われ、計画が立てられている。また、短期目標がフファイルの1ページにとじられ具体的に日常の支援行動が出来るようになっている。ただ、入居者の思いの反映が少ないようである。現在、センター方式を取り入れ、勉強中である。今後の充実を期待したい。
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	体調の変化や入院で、現在の計画で対応できない時は、本人や家族、関係スタッフと話し合い、現状に即した計画を作成している。介護期間に応じた3ケ月の見直しはできている。	○	精神的な面での変化も考慮してほしい。今後のセンター方式の成果に期待したい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	近隣のグループホームとの合同イベントを開催するなど、スケールメリットを活かした取り組みを行っている。なじみの理容･美容室への同行やカットの特技がある職員による理美容サービスなども行っている。また、広い敷地を利用して畑を作り、入居者の趣味を活かせる取り組みも行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者のかかりつけ医の希望を尊重し受診を支援している。医療情報提供書があり、服薬管理･薬の副作用など職員全員で共通認識し連絡帳で共有している。また、総合病院と提携し、時間外対応ができる体制を整えている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看護師が常勤されている現状で、本人の意思を確認し、終末期を支援された事例がある。家族・医師・職員を交えて話し合いを行い、状態変化があるごとに家族の気持ちや本人の思いを大切に支援に繋げるようにしている。今後、看取りに関する指針を作成し、意向確認書などを残すように考えている。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取り扱いには、職員の秘密保持の誓約書がある。言葉がけや対応は、入居者のプライバシーや誇りを損なわないように配慮されている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、時間を区切った過ごし方はしていない。畑での野菜作り・買い物・生け花・折り紙・お茶などの参加は本人の希望にそって個別の支援が行われている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と職員は、食事の準備や後片づけをできるだけ一緒に行っている。季節の旬の食材を食べていただく献立に工夫している。ある入居者は、我が厨房のように自然に食器を洗っておられた。食事の準備・片づけの役割が決まっている。満腹感がない方には、盛り方を工夫している。		
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の希望により、いつでも入浴できる体制をとっている。介助が必要な方には、基本的には1対1であるが複数の職員での介助を行うなど入居者の状態に合わせた支援を行っている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々をすごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	アセスメントから入居者の興味あることを引き出し、残存能力を活かしたケアプランを作成している。生花を玄関や共用空間に活けてもらったり、畑で野菜作り･食事の準備･洗濯物たたみなど、入居者一人ひとりの能力が発揮できるよう支援している。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の希望に応じて、ホーム敷地内の畑で野菜作りをしたり、散歩･スーパーへの買い物･農事センター･平尾台･近隣施設など季節･気候に合わせて、外出を楽しんでいただく支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	昼間は鍵をかけることはなく、入居者の行動を制限しない環境づくりを行っており、鍵をかけないケアを実践している。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域消防団や消防署の協力で避難訓練を定期的に行っている。また、マニュアルなどが作成され研修も行われている。緊急時の連絡先を目の届く位置に貼るなど工夫がなされている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の献立は栄養バランスを考えた減塩食で、食べやすい形態で食事が提供されている。水分1500cc、摂取カロリー1500～1600カロリーを目標に摂取されている。咀嚼が悪い方などには個別に対応し、摂取量のチェックや週に1度の体重測定も行われている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、ﾄｲﾚ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	観葉植物や絵画・季節の草花など、生活感や季節感を取り入れ、居心地良く過ごしていただく工夫がある。共有空間は3面が窓に面し、採光が良く平尾台の借景など、周りの風景を楽しめる造りとなっている。大きなテーブルが入居者の拠り所となっている。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、入居者一人一人の好みの装飾品や写真が飾られ、一人ひとり個性のある部屋になっている。自宅で使われていた馴染みの家具や日用品が持ち込まれ、職員と一緒にﾚｲｱｳﾄを考え、安心して生活できる個性ある部屋づくりを行っている。		